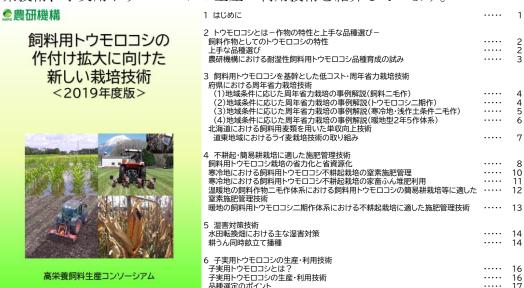
技術の窓 No.2541 R4.1.25

飼料用トウモロコシの作付け拡大に向けた 新しい栽培技術<2019 年度版>パンフレット

近年、輸入飼料の価格が高騰し、畜産経営を圧迫しています。飼料用トウモロコシは乾物収量と可消化養分総量(TDN)が高く、増産することで飼料費を節減できます。そこで、飼料用トウモロコシの作付け拡大に向けた新しい栽培技術として、飼料用トウモロコシの省力栽培技術や、省力栽培技術に対応して安定多収と化学肥料費の削減を両立する施肥管理技術、湿害対策技術、生産拡大が期待されている子実用トウモロコシの栽培技術等を掲載したパンフレットを紹介します。

☆ 技術の概要

- 1. 地域条件に応じた省力栽培技術として、簡易耕・不耕起播種を活用した飼料二毛作、 トウモロコシ二期作、寒冷地・浅作土条件での飼料二毛作、暖地型 2 年 5 作体系を紹介 しています。また、北海道でのライ麦を用いた単収向上技術を紹介しています。
- 2. 不耕起・簡易耕栽培に適した施肥管理技術として、寒冷地の飼料用トウモロコシ単作 地帯では不耕起栽培に適した窒素施肥管理技術と家畜ふん堆肥利用技術、温暖地の飼料 二毛作体系では飼料用トウモロコシの簡易耕栽培に適した窒素施肥管理技術、暖地の飼料 料用トウモロコシ二期作体系では不耕起栽培に適した施肥管理技術を紹介しています。
- 3. このほか、飼料用トウモロコシの特性と上手な品種選び、耐湿性品種育成の試み、湿害対策技術、子実用トウモロコシの生産・利用技術を紹介しています。



☆ 活用面での留意点

本パンフレットは農研機構ホームページ

https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/134736.html から入手できます。

(農研機構 畜産研究部門 畜産飼料作研究領域 赤松佑紀)